

史料1 「魏志倭人伝」①

租賦そふを収むるに、邸閣ていかく有り。国国に市有り、有無を交易し、大倭をして之を監せしむ。女王国より以北には、特に一の大率だいてうを置き、諸国を檢察せしむ。諸国しよこく之を畏憚おそす。常に伊都国いとこくに治し、国中に於て刺史ししの如く有り。……下戸げこ、大人たいじんと道路に相逢えば、逡巡しゆんじゆんして草に入る。辞を伝え事を説くに、或いは蹲うつすまり、或いは跪ひざまぎ、両手は地に抛り、之が恭敬こうけいを為す。……居処いこの宮室は、楼觀・城柵じやうさくをば厳しく設け、常に人有り兵を持ちて守衛す。……卑弥呼ひみこ死するを以て、大いに冢つかを作る。径は百余歩、徇葬じゆんざうする者、奴婢ぬひ百余人なり。(原漢文)

史料2 「魏志倭人伝」②

景初二年けいしよの六月、倭の女王、大夫たふ難升米なんしやうまい等を遣わし郡に詣いたらしめ、天子に詣りて朝獻てうけんせんことを求む。……其の年の十二月、詔書しよしよして倭の女王に報じて曰く、「今、汝ななを以て親魏倭王しんゑいと為し、金印紫綬ししじゆを假し、装封さうほうして帯方太守たいほうたうしゆに付し假授かじゆせしむ。……また、特に汝に紺地句文錦こんぢくうきん三匹、細班華鬪さいはんかけい五張、白絹はくきゆう五十四、金八両、五尺刀二口、銅鏡百枚、真珠、鉛丹各五十斤を下賜し、皆、装封して難升米と牛利しゆりに付す。……」と。(原漢文)

※三年の誤りとみられる。